

図 2※ 北海道駒ヶ岳 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2007 年 5 月）↑印は噴火  
 ・昭和 4 年火口では 2003 年 9 月以降 10～50m 程度の噴煙が時々観測されています。  
 ・昭和 4 年火口の火口温度は、2002 年以降緩やかな上昇傾向が認められていましたが、  
 2006 年秋頃からはほぼ横ばいの状況が続いています。

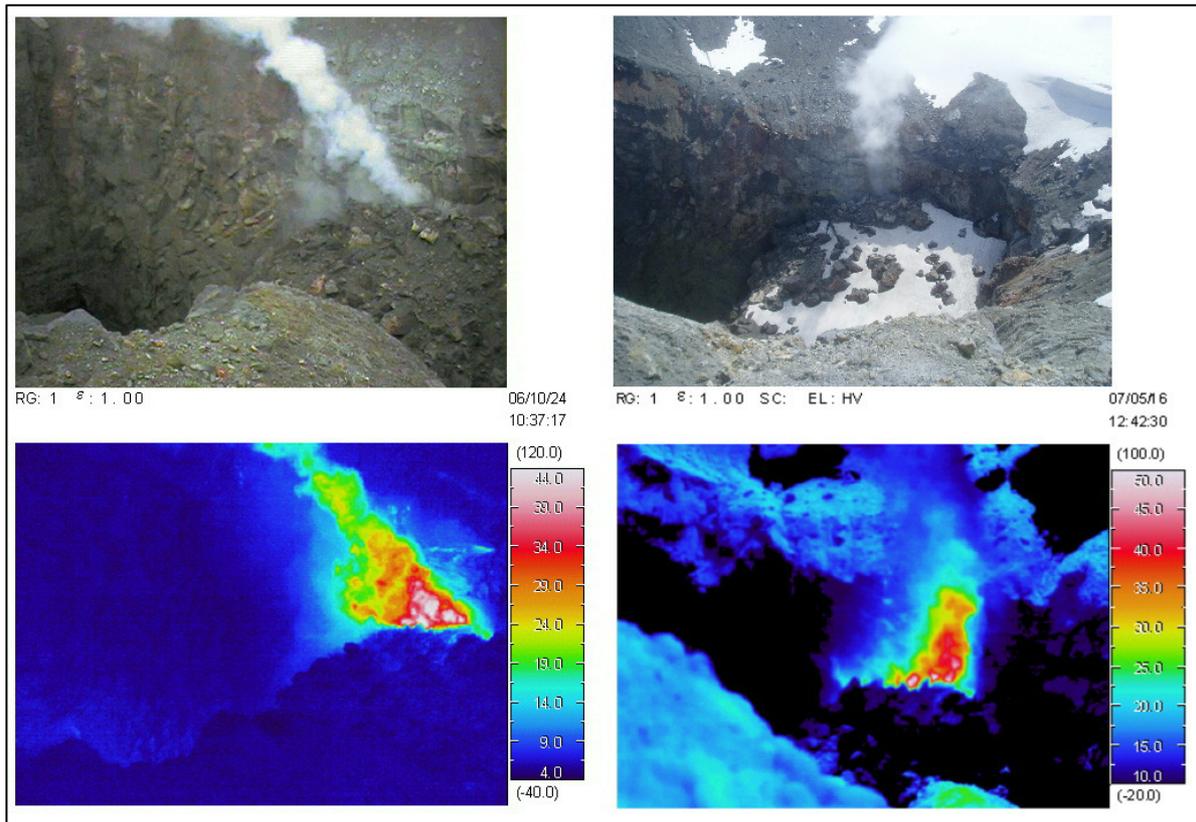


図3 北海道駒ヶ岳 北西側火口縁から赤外熱映像装置\*により測定した昭和4年火口内の表面温度分布（左図：2006年10月24日、右図：2007年5月16日撮影）

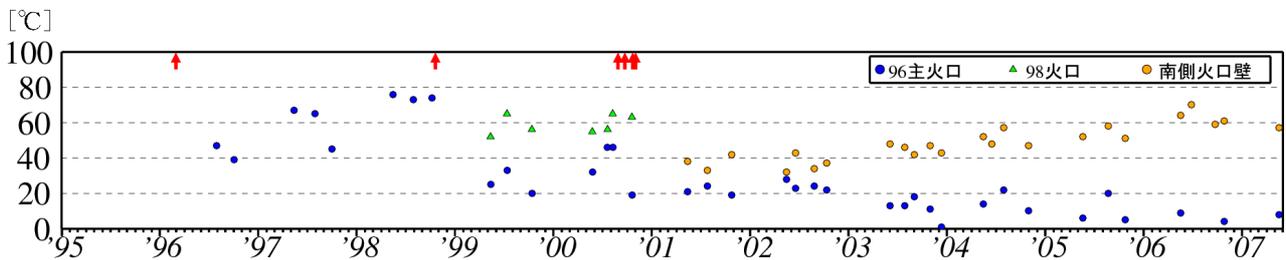


図4 北海道駒ヶ岳 赤外放射温度計による昭和4年火口における各領域の最高温度 ↑：噴火

【昭和4年火口】

- ・火口内の南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。赤外放射温度計\*で測定（測定距離約 120m）した火口温度の最高は57℃で前回（2006年10月：61℃）と比較すると大きな変化はありませんでした。南側火口壁の温度は2002年以降緩やかな上昇傾向が見られていましたが、2006年秋頃からはほぼ横ばいの状況が続いています。

\* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。



図5 北海道駒ヶ岳 96年南火口列F10噴気孔の状況(2007年5月16日撮影)

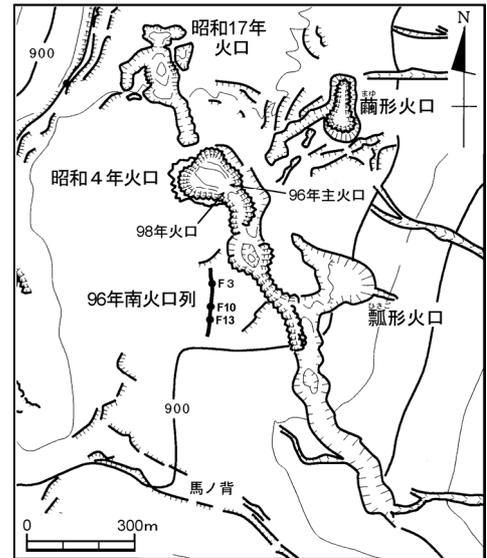


図6 北海道駒ヶ岳 火口周辺図

【96年南火口列】

- ・火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列南側の噴気温度は低い状態が継続しており、全体的に見ると熱活動は低下傾向が続いています。

【その他の火口】

- ・昭和4年火口周辺の瓢形(ひさごがた)火口、繭形(まゆがた)火口、明治火口、昭和17年火口でも弱い噴気活動が続いています。これらの火口の熱活動が活発化する傾向は見られません。

表 1 北海道駒ヶ岳 地震・微動の月回数（A点：図7のKOMA、剣ヶ峯東：KGMH）

2006～2007年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
A点地震回数	0	0	1	0	0	3	0	0	0	1	0	0
剣ヶ峯東地震回数	12	2	5	2	11	25	3	2	1	4	1	2
A点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

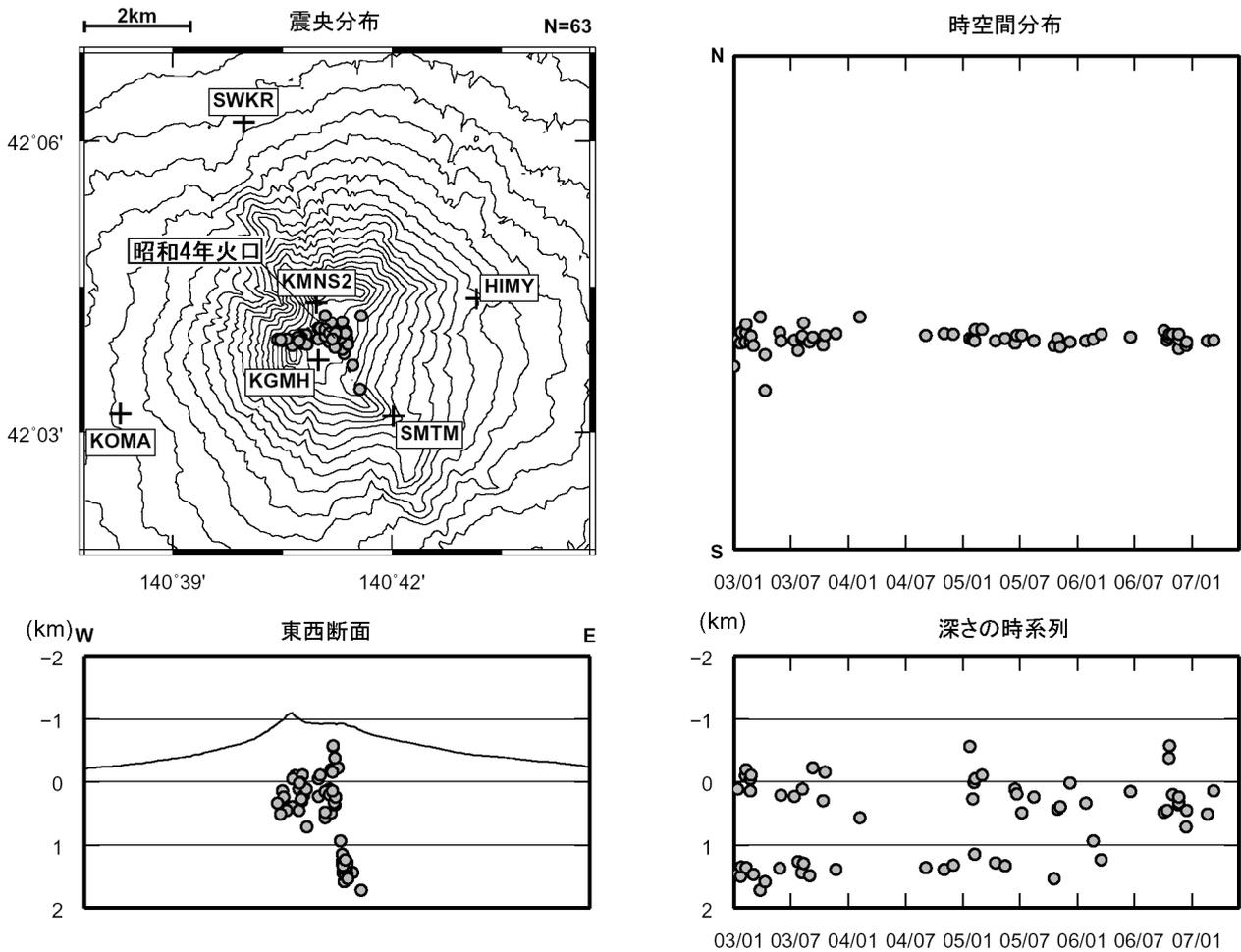


図 7 北海道駒ヶ岳の震源分布図（2003年1月1日～2007年5月31日、+は地震観測点）

●印は2003年1月～2007年4月に求まった震源

- ・これまでに求まった震源は山頂火口原直下の浅い所（山頂から深さ約1～3km付近）に分布しています。今期間に震源の求まった地震はありませんでした。

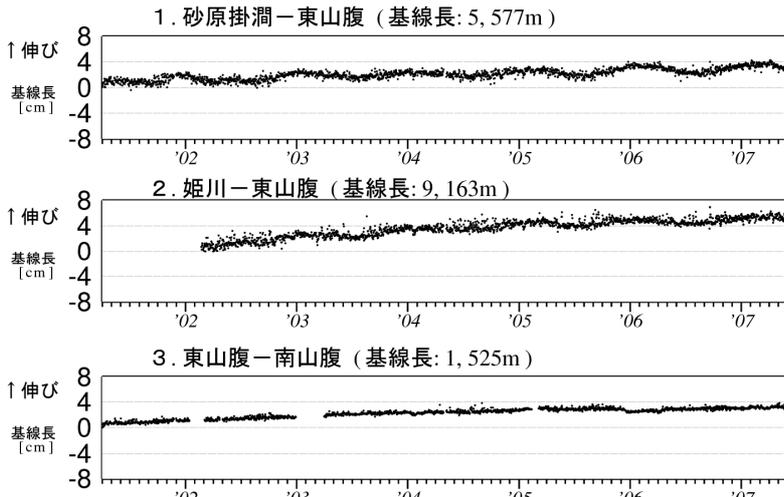


図 8 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測による基線長変化  
(2001 年 4 月～2007 年 5 月)  
グラフの空白部分は欠測

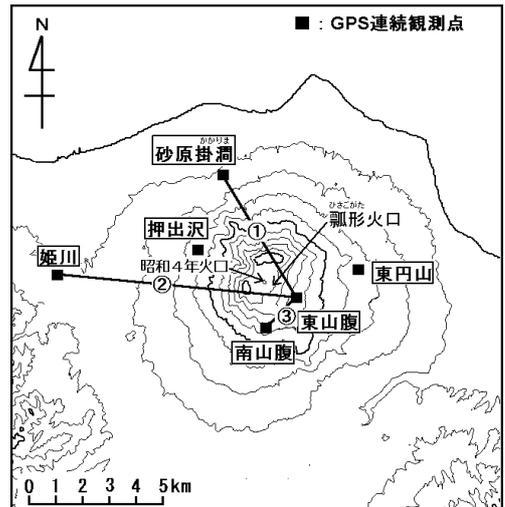


図 9 北海道駒ヶ岳  
GPS 連続観測点配置図

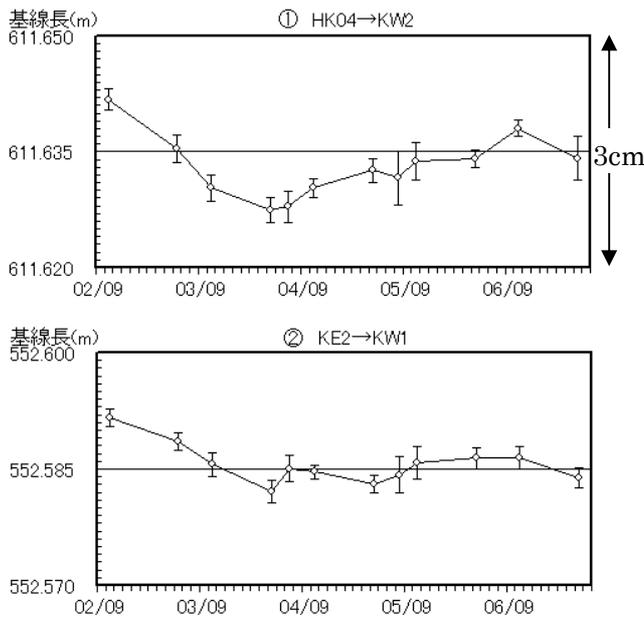


図 10 北海道駒ヶ岳  
GPS 繰り返し観測による基線長変化  
(2002 年 9 月～2007 年 5 月)

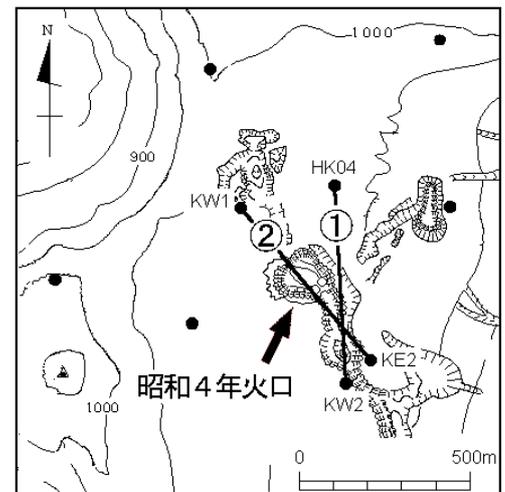


図 11 北海道駒ヶ岳  
GPS 繰り返し観測点配置図  
(図 9 の口部分を拡大)

図 8 の 1～3 は、図 9 の GPS 基線①～③に対応しています。  
図 10 の①～②は、図 11 の GPS 基線①～②に対応しています。

- ・ GPS 連続観測では季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。
- ・ GPS 繰り返し観測では、昭和 4 年火口を挟む複数の基線で 2003 年まで収縮傾向でした。これらの基線では 2004 年に反転し、これまでわずかに膨張する傾向が見られていますが、2007 年 5 月の観測ではこの傾向が鈍化しています。